

平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

1. 学校概要

学校名 豊橋市立大清水小学校
 種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 所在地 〒441-8132
豊橋市南大清水町字元町78番地
 E-mail ooshimizu-e@toyohashi.ed.jp
 Website <http://www.ooshimizu-e.toyohashi.ed.jp>
 児童生徒数 男子 184 名 女子 185 名 合計 369 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

大清水校区は、自治会、パトロール隊、しょうぶを守る会等の諸団体や福祉施設を中心に、本校の教育活動に非常に協力的な地域である。本校では、そうした地域の方々との連携を図りながら、自然・環境学習、福祉・人権学習、地域の歴史・伝統・産業に関する学習、食に関する学習（食育）を行ってきた。地域学習をさらに推進していくために、総合的な学習の時間や生活科を中心に、身近な人・もの・ことから問題を見つけ、校区を探検したり、地域の方にインタビューしたりしながら問題を解決していく学習を行っていく。そして、「ふるさと大清水」のためにすすんで貢献しようとする気持ちを高められるようにしたいと考え、実践している。その中の3年生が行った伝統文化・食に関する学習の実践を報告する。

① 実践名

大清水ものしり博士になろう

② ねらい

- ・大清水に関わりのあるしょうぶの学習を通して、地域に愛着をもち、しょうぶを大切に育てる。(伝統文化)
- ・大清水に関わりのあるキャベツの学習を通して、農家の人の思いを知り、食べ物を感謝して残さず食べる。(食育)

③ 実践内容

<大清水としょうぶ> (伝統文化)

本校では、毎年3年生が校区にある大清水しょうぶ園の株分けを手伝い、学校にある「きらりしょうぶ園」のしょうぶの世話をすることになっている。

本年度も、5月11日に校区探検を行い、大清水しょうぶ園に立ち寄った。その時に3年前大清水まなび交流館ができるまであったしょうぶ園と、交番の横にあった最初のしょうぶ園の場所を確認した。そして学校に作られている「きらりしょうぶ園」のしょうぶの世話をしていくのに合わせて、しょうぶの学習に入っていく。しょうぶの種類や育て方についてインターネットで調べたり、地域の方に教わったりして、当番で「きらりしょうぶ園」の水やりや草取りなどしょうぶの世話をしていくことにした。

5月30日の大清水しょうぶ園での絵をかく会では、しょうぶの花の美しさを表現しようと、写生にうちこむ子どもたちの姿がみられた。6月に大清水しょうぶ祭りがあることを知り、自分たちも「きらりしょうぶ園祭り」を開いて、低学年の子にきれいに咲くしょうぶの花を見てもらおうという声が出てきた。グループに分かれ、「しょうぶクイズ」「しょうくんのぬりえ」などのしょうぶにちなんだ遊びを考えたり、輪投げやボウリングなどの景品にしようとして折り紙のしょうぶを作ったりして、祭りを計画し、準備に取り組んだ。当日は、天気が悪く1年生が主な客であったが、校区のしょうぶの会のみなさんも参加していただき、子どもたちも満足して終わることができた。



きらりしょうぶ園祭りの様子

花が咲き終わってからの株分け作業を、大清水しょうぶ園では3年生と保護

者の有志が参加して行った。学校のしょうぶ園もしょうぶの会のみなさんの手ほどもきを受けて、全員で株分け作業をおこなった。その時にしょうぶの会の人から、しょうぶの花のことや大清水としょうぶのつながりについての話を聞く時間を設けた。「昔、開拓の人たちが藤ヶ谷に咲いていた美しいノハナショウブを大清水の花として残したいという思いから大清水小の校章になった」という話を聞き、子どもたちもしょうぶを大切に育てていきたいという思いがよくなった。株分けしたしょうぶが、来年きれいな花を咲かせることを願いながら、朝の水やりや草取りなどの世話をした。

<大清水とキャベツ> (食育)

子どもたちが校区探検をして感じたことは、「大清水校区にはたくさんの畑がある」ということである。校区探検をした6月は、キャベツの収穫が終わり、畑はならされて、何も育っていないところが多かった。「何を作っているのだろう」という子どもの疑問が残ったが、夏休み明けにあちこちの畑で一斉にキャベツの苗が植えられていくのを見て、子どもたちの疑問は解決された。

「大清水の畑にはキャベツがいっぱい」という子どもの声に、「大清水とキャベツ」をテーマに2つめの学習が始まった。豊橋農協の高須さんをゲストティーチャーに よんで、キャベツについて教えてもらうことにした。豊橋で作られている農作物にはじまり、キャベツの種類、キャベツの育て方などについて、子どもたちは興味深く聞いていた。とくに「冬キャベツと春キャベツがあり、両方が同じ時期に収穫されている」「時期をずらしながら、キャベツが秋から春までずっと作られている」ことに驚いていた。



豊橋農協の方からのお話

子どもたちは、「畑のキャベツを見たい」「農家の人の話を聞いてみたい」という思いをもち、キャベツ畑の見学を行った。1列に200個も並ぶ広い畑。そこにたくさんのキャベツが実っていることに驚いていた。「8月に種まきして、3月に収穫するので、育つまでに7か月もかかる」「食べる人のことを考えて、肥料や農薬を工夫して使っている」など、農家の人の苦労を知ることができた。また、「農家が減っているのに、どうして農家になったのですか」という質問に対して、「おいしいキャベツを食べてもらいたいから」と答えられた農家の人の思いを知り、「野菜は嫌いだけど、食べたほうが良いと思った」「育つのにこんなに時間と手間がかかるので、大切に食べたい」という思いをもつ子が多かった。

後日、栄養教諭さんから野菜の栄養についての話を聞き、今の時期はキャベツもおいしく、みずみずしくて体にとてもよいことを聞き、野菜を残さず食べていこうという気持ちがさらに高まった。

他にも、4年生が「環境」、5年生が「防災」、6年生が「福祉」について学習を進めている。例年と同じ活動をしつつ、その学年の子どもたちの思いに合わせて活動内容を修正しながら行っている。今後も子どもたちの思いを大切にしながら進めていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）